

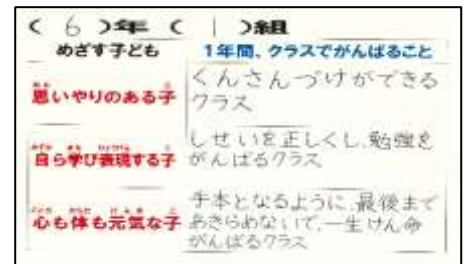


わげんあいご 和顔愛語

令和3年4月26日

各学級が軌道に乗りつつあります！

今年度は、「小野小がめざす児童の姿」を「思いやりのある子」「自ら学び表現する子」「心も体も元気な子」と修正設定しています。これら徳知体の目標を、各学級レベルでしっかり意識させたいものです。そこで、自分たちの学級では何をめざすか、各項目で設定し、明記して職員室前廊下に全学級分を掲示します。「学級公約」のようなものです。来校の折にはご覧になってください。



子どもたちの1学期のめあて！

……「**る**」が多くてうれしいです！

◀1学期の目標と4月のぼく・わたし▶		
<学習面>	<生活面>	<体育面>
自学をがんばる	あいさつを自分からする	体力をつける

学校だより「和顔愛語」1号裏面で紹介しましたが、始業式で「る」という詩を紹介しました。自分自身の成長を促す「変身のチャンス」をしっかりと掴むためには、「る」という固い決心が必要だという話をしたのでした。

各学級では、「1学期のめあて」を各自が設定して、そろそろ教室に貼りだされています。一人一人の子どもたちのめあてを読んでいると、「る」で文末を締めくくっている子どもがたくさんいました。正直うれしかったです。始業式の話、ちゃんと聞き、心に留め置いてくれた子が多かったこと。校長の話を受けて、学級児童にきちんと伝えなおした担任が多くいること。小野小学校の一体感が感じられますね。子どもたちも、先生たちも、「これまでの自分を超越る変身」をしてくれそうな予感です。

2年ぶりの歓迎集会・歓迎遠足！

4月23日（金）に新入生の歓迎集会と、干拓の里までの歓迎遠足を行いました。昨年度は臨時休校でできなかったのが、2年ぶりです。集会は運動場で行う、6年生と1年生は手をつなぐのではなくて輪にした鉢巻きを互いに持ってリードする、などコロナ禍以前とは異なる様子も少なからずありますが、小学校の4月の風物詩が帰ってきた感じでうれしかったです。



干拓の里では、1・6年ペアの微笑ましい様子や、2～5年生が新しいクラスメイトと楽しく過ごす様子が見られました。例年のザリガニ釣りは小川の水が少なくできませんでした。遊具で遊んだり、鬼ごっこをしたりして、楽しく過ごしました。

いろいろな制限があり、工夫も必要でしたが、「With コロナ時代」の新入生の歓迎集会・歓迎遠足ができてよかったです。

※ 裏面もご覧ください。



【校長の独り言・・・・・・・・】

「**第二次キャンプブーム**」らしい…。

急がず、慌てず、耐える力も「生きる力」だ・・・！

厳しいコロナ禍の観光産業ですが、成長している分野があります。それが「アウトドア／キャンプ」です。今のブームは「第二次キャンプブーム」というらしいです。かく言う私も、30年以上前からキャンプ・釣りなどのアウトドア大好きで、道具類もある程度は持っている人間です。

では、「第一次」はいつだったかという、1996年前後だそうです。ブームの要因は主に2つ。『自動車と週休2日制』が関係していると言われます。一家に一台が当たり前になった自動車が、移動手段から趣味・レジャーの領域に入り、その延長線上にキャンプがあったというもの。SUVという分類の自動車が流行しました。また、1992年から国家公務員を始め、週休2日制を取り入れる企業が増え、単純に休暇を過ごす手段としてキャンプが選ばれたということです。時代的にもちょうどバブル景気が終わり、都会での遊びよりも自然と触れ合う過ごし方というのが好まれていました。

その後、2000年代に入り、日本の景気とともに全国のキャンパー数が減少。しばらくの間、キャンプ・アウトドアの低迷期が続き、2015頃から再びキャンプブームに突入します。今の「第二次ブーム」の要因は、良くも悪くもSNSだと言われています。特に『Instagram』の影響は大きく、“いいね”を獲得することが一種のバロメーターであり、まさにキャンプはインスタ映えの格好の場所となりました。また、ソロキャンプブームの第一人者「ヒロシ」のYoutubeチャンネル登録者数は約90万人と、昨今のソロキャンプブームを牽引しています。

しかし、SNS関連で言えば、あえてネットやSNSから離れるためにキャンプをする人もいます。『あふれる情報に巻き込まれて、ただ時間が過ぎてしまう』という危機感を持っている人たちです。特に、ネットの子どもへの影響を心配し、お子さんを外に連れ出したいと考える親たちがキャンプを始めるケースも多いようです。

現代はまさに“情報の海”。時にはネット・SNSから離れることも必要であり、子どもへの影響を考えると、楽しく自然と戯れることができるキャンプは最善の選択の一つと言えるかもしれません。



私もキャンプ・アウトドア大好き人間ですが、「無駄なこと」だったり、「時間の流れの緩やかさ」だったりを楽しんでいます。コロナ禍で人混み・外出を控える日常が続きます。引きこもりの中で、淡々と愉快地に日常を過ごす力も大切になっています。答えが見えない不安定な状況に、急がず、焦らず、耐えていく力も大切な「生きる力」だと思います。

気候もよくなり、大型連休も近づいてきます。コロナ禍の中で、どう過ごすかを考えていきたいですね。私は、今年の連休も自宅キャンプ（庭にテントを張る）とアウトドアクッキングをやるのか、と考えているところです。

※裏面もご覧ください。